

合事

壬申十月廿七日

左政官

左政官地方當使官務所仰付各官
費屬出之家祿外之他地收稅額加將
未自的トイタシ漸次北海道各地に散布役任
産業ヲ營ミ生計相立多祿所置可致
有之就テ每屬祿高人員等取調盡
藏省ヨリ差出俸内次ニ男廢祿ノ有之
且福島縣轉答ノ者ヲ除キ其餘當使
官務所歸シ俸モノ祿高ハ當十月ヨリ大減
省ヨリ所派相成祿至急月省ノ所達
相成度并段申上之也

壬申九月廿三日

黒田開拓次官

正院

市中

但し通商爲一年分は總て一時大
にありては酒は條約より日方へ
可なり

但し人一個年分は酒は割取一斗
分は酒は中月より酒は日方へ

壬申十月

五

北海は産物多し、清國通商物中
昆布、東海産干鮫等、輸送金額
莫太、所國産、最大者なり、然れは
近外國人、于に轉賣、利ヲ占、所國民
利スル處些少、故所詮此利益ヲ
我ニ歸セシメ度年来見込、候處既ニ
清國ト條約御束結、人民互ニ通
商差支無之時會ニ際シ、當使用連
根本六兵衛以下數名申合、彼地へ輸送